

10:00 柴崎先生「本研究会について」

マイクロジオデータを巡る現在の状況について。

新しくポテンシャルはあるものの、技術的にはこれから詰めるべき段階。

研究会内でデータを共有、研究会外へ広報するべきである。

→本研究会を開く理由

余談:この話は日本だけに留まるものではなく、海外(バングラデッシュなど)においては、人口などの基礎的データを得るために、携帯のログデータなどが活用される予定である。

10:10 秋山さん「本研究会について」

研究会設立の背景

- ・様々なミクروسケールの非集計データが利用できようになりつつある。

研究会の趣旨

- ・次世代のGISスタンダードの確立。
- ・研究者、データホルダー、データユーザーで連携、産官学が連携し、アイディアを持ち寄る場とする。

研究会の目標

- ・研究者が自由にデータを利用できる環境の実現
- ・既存の統計データに依存しない空間データの普及(スマートフォンなどから得られた非集計データ)
- ・マイクロジオデータの開発・活用方法の模索の場

(質問時間)

経産省竹本:「専門用語が分からないときがあった。例えば非集計データとは？」

柴崎:「今後は注意しましょう。」

10:20 自己紹介

(貞広先生)

東大都市計。以前 csis。NTT のタウンページデータ、ゼンリンのデータ、GPS データなどを使用している

(稲坂先生)

理科大工学部。タウンページデータを使った時空間データの分析、可視化の研究をしている。元は建築や都市計。

(伊藤先生)

以前 csis。理科大理工学部。空間と情報のデザインについて研究している。D 論ではゼンリンデータを使用了。

(今井先生)

Csis。7月から、イベント時における訪日外国人の調査。案内所でGPS ロガー付きデジカメを渡し、面白かったところや問題と思ったところを位置情報として取得。調査結果の一部→「ゴミ箱の案内が欲しい」

(秋山さん)

(柴崎)

Csis。海外ネタを探している。バングラデッシュのADB のプロジェクトに関わっている。社会的に望まれている細かいデータを個人情報に配慮しながら如何に社会へ還元していくか。

(仙石)

(橋本)

ゼンリン。20 年前から電子地図データを販売している。店舗情報も電子化している。ぜひデータを提供させて頂きたい。

(平下)

JPS。GIS が当たり前になってものの、データの質については昔とそれほど変わらないと思いがち、この研究会に期待している。新鮮で豊富なデータを安く利用したいという需要がある。

(平川、佐藤)

ゼンリンデータコム。携帯データを利用した位置サービスを提供している。混雑統計を活用したい

(竹本)

経産省、中心市街地活性化。空洞化という問題に対して取り組んだ成果を求められる。定量的な指標が必要である。この問題を解決するために本研究会に期待している。

(?)

Csis 客員教授。ジオコーディングサービスや jaros などを提供。

(?)

Csis。東大情報。空間解析をテーマ。

(金城)

ゼンリンデータコム。災害時の位置情報の活用。

(福井?)

JPS。現場に詳しい。

(小野)

地球観測データを対象に、データを共有する仕組みについて取り組んでいる。

(関口)

貞広研。秋山さん。

(?)

元貞広研。土地利用。

(藤井)

東大卒業。時空間データの可視化と空間認知。以前は建設コンサルで10年勤務。

(高山)

ゼンリンデータコム。混雑度データを作成している。

(?)

ゼンリンデータコム。

(?)

東京理科。商業と都市の混在。

(こぜに?)

東京大、貞広研。

(岡本)

(羽田野)

10:45 混雑統計の紹介(ゼンリンデータコム平川)

ドコモオートGPSを利用した会員のデータを集計して作成している。

ラボサイトでは、300mメッシュ、直近1時間前の推定人口を見ることが出来る。

今年12月をめどに商用利用できるサービスをリリース予定。

商用化にあたっての課題→属性、POSデータとの突き合わせ集計、屋内でのデータ取得。

膨大データのハンドリング、ノイズの問題→研究機関に相談したい。

(佐藤)「5分間隔でログを取っているため、交通量調査に活用できないかという問い合わせがある。課題はあるが、可能性が高いデータである。」

10:57 稲坂先生「研究内容の紹介」

テーマ : 商業集積拡大方向の分析手法とその可視化について。

手法 : 円統計を利用→過去の出店地の方向ベクトルの合成ベクトルを180度回転した方向に拡大していこうという仮定。

方向の可視化→HSV色空間を用いて方向を表す。

結果 : 渋谷駅、恵比寿駅を中心に店舗しているのが分かる。

展望 : 拡大方向だけではなく、縮小方向も解析していきたい。

(質問)

柴崎先生「同じ手法で一都三県で分析するとすれば、どれくらい大変か?ソフト、時間、自動化の面で」

稲坂先生「かなり大変。渋谷区全体だと、ノートPCで30分くらい。自動化はできるだけ行っているが、まだ手作業の部分もある」

柴崎先生「自動化は大切。」

11:10 秋山さん「マイクロジオデータの現状について」

更新頻度 1 年以内、集計単位 1km 以内のデータ

住宅地図、電話帳データ、agoop、オート GPS ログデータ、web データ、PT、ドコモモバイル統計、商業集積地域データなど

(コメント)

柴崎先生「一般に、PT データは更新頻度という概念がない。我々は時空間補間しているので、細かく利用できる。利点として、サンプル率を適正に設計しているので、拡大が偏りなくできる。欠点として、ショートトリップの欠落がある。海外でも JICA のプロジェクトで行われている。」

経産省竹本「スライド(人の流れの可視化事例)をどのように見ればいいのか教えて欲しい。」

秋山さん「人の移動人数の分布を表している。」

柴崎先生「細かいアンケートを基にしている。(動画を見せる。)」

公聴席「何日分か? 休日は?」

柴崎先生「1 日分で、基本的には平日のみ。京都などではサンプル数を減らして休日行った例もある。」

ゼンリンデータコム

「(熱海で動線解析した結果を見せる。)観光地に来ているひとが、どこから来ているかを調べることが出来る。使用交通機関、経路も推測できる。」

貞広先生「PT と混雑度マップをどちらもつきあわせて、信頼性をあげることはできるのでは? お金を払わないでアプリを使える代わりにデータを提供してもらうことは出来ないのか?」

ゼンリンデータコム

「携帯保有率、キャリア率の母数の問題がある。また、個人情報の問題、ドコモとの関係で非集計データをそのまま公開することはできない。」

貞広先生「非集計データをもっと見せた方が良い。見せ方も様々なものを作ると良い。」

ゼンリンデータコム

「研究分野では、ドコモの許可をとりながら非集計データを提供することはできる。ぜひ、研究側に活用して頂きたい。現時点では、データをもてあまし気味とも言える。」

貞広先生「過去のデータの保存が大事。10 年以上のスパンで考えて欲しい。」

ゼンリンデータコム

「すべてをそのまま保存するのは難しい。どこかのタイミングで圧縮や選択が必要。」

柴崎先生「1 民間企業がすべてを保存しようとするから難しい。Csis などで管理できればいい。」

11:40 柴崎先生「データ共有について」

Csis 共同研究利用システム JoRAS の紹介。

データホルダーが明確なデータポリシーを持っているのであれば、それに基づいて運用できる。

本研究会でも成果カタログなど目に見える形で、共有などをしていきたい。

データ申請者は、大学の研究者である必要はない。

GIS 学会でのアウトリーチ活動について。

(質問時間)

ゼンリンデータコム

「商用化にむけて、まずは研究機関との共同研究が必要と考えている。データポリシーについては、まだ会社内での協議が必要。

研究者の方から、混雑データを利用した研究についてご提案を頂きたい。」

貞広先生「混雑データについて、時系列で使ってみたい。」

柴崎先生「地図サービス利用者の数が変化すると、偏ってしまうかもしれないから注意が必要。ドコモのモバイル空間統計データだと、個人属性もついている。

両者を統合した解析に期待。」

平下さん「民間業者は営利を得なくてはいけないので、研究ばかりにいつてしまうとうまくいかないのでは。担当責任者が替わると途端に研究会がなくなる時もある。」

柴崎先生「研究者も、研究結果を商用利用されて構わないと思っているのでは？この会は、単なる名刺交換会ではなくて、きっかけとして、各自が上手く使ってもらえばいいと思っている。」

12:05 次回のはなし。

3,4ヶ月に1回、毎回2,3時間を予定。